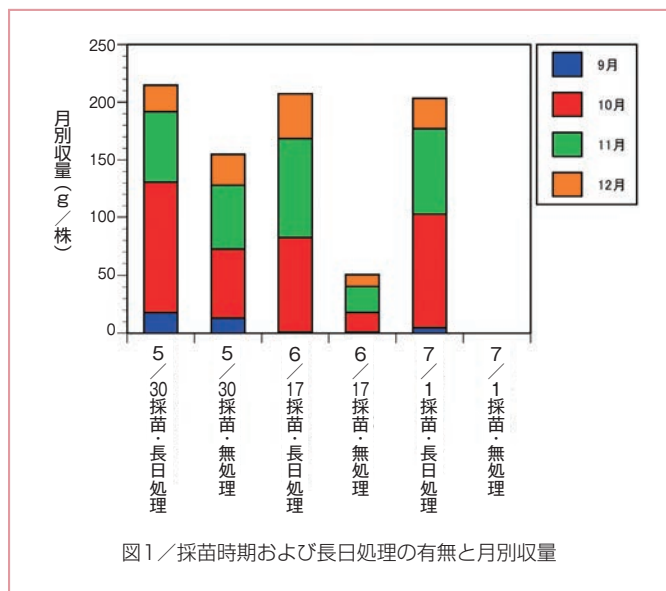


おいしい四季成り性イチゴ `なつあかり、を秋にとろう

我が国ではイチゴの収穫量は夏～秋にかけて少なく、特に9～10月は価格が最も高いため、この時期に高品質な果実が収穫できれば経営的に有利です。イチゴは涼しい気候を好むので、夏秋期のイチゴは北日本や高冷地を中心に栽培されています。果実を収穫するには、その2～3か月前に花が作られる必要がありますが、日本で栽培されている主なイチゴは秋の気象条件（涼しくて日が短い）で花ができる「一季成り性」という性質をもち、この時期に収穫することは困難です。しかし、イチゴの中には気温が高めで日が長い春や夏でも花ができる「四季成り性」という性質を持つものがあり、夏秋に見られるイチゴ果実は「四季成り性品種」のものであることが多いのです。

《長日処理による四季成り性イチゴ`なつあかり、の秋どり》

東北農業研究センターで開発された四季成り性イチゴ`なつあかり、は、四季成り性イチゴの中でも味がよいのが特徴ですが、残念ながら花が少なく、自然状態で栽培すると秋に収穫できる量は限られます。ところで、日を長くすると四季成り性イチゴでは花ができやすくなることが知られています。そこで、人工的に日の長さを延ばす処理（長日処理）が`なつあかり、の花を増やし、秋の収量を増加させるのに有効であるかを確認する実験を行いました。苗は5/30、6/17、7/1の3時期に採苗し、定植前1か月間、終夜白熱灯を点灯した条件下で苗を育てました。定植は8/11に行いました。



畑作園芸研究領域
濱野 恵
HAMANO, Megumi

《すべての株で秋に収穫可能に》

秋に収穫するには、暖房のないハウスでは開花後3週間から1か月半ほどで果実が熟するので、遅くとも10月上旬に開花する必要があります。長日処理を行わないと、その頃までに開花して収穫できた株の割合は、5/30採苗では100%でしたが、6/17採苗で60%、7/1採苗で0%と採苗時期が遅いほど小さくなりました。しかし、長日処理を行った場合には採苗時期に関わらずすべての株で秋に収穫でき、長日処理で開花が促進されたことが示されました。特に採苗が遅い7/1採苗で効果が顕著でした（写真）。



写真/7月1日採苗株の10月上旬の様子

左：無処理、右：長日処理 無処理では花が全く咲いていないが、長日処理を行うと10月上旬には収穫可能になる。

《秋の収量が増加》

長日処理を行うと無処理と比べて秋の収量が増えました。収穫株率が上がった6/17および7/1採苗では勿論ですが、長日処理をしなくても100%収穫できた5/30採苗でも更に収量が上がリ、花が増えた結果と考えられました(図1)。

《今後の課題》

電気代を考慮すると電灯の点灯時間や処理期間の短縮が望まれます。また、現在は白熱灯を利用していますが、蛍光灯やLEDを使用する場面もあると思います。その場合は含まれる光の性質が異なるため効果が変化する可能性があります。今後これらの諸条件について研究を進める必要があります。